国際交流サロン

5月の「世界の民話と昔話」は「イギリスの『ジャックと豆の木』」です。さあ、世界のことを知って交流を始めましょう。

国　イギリス

民話／昔話　ジャックと豆の木

ストーリー

貧しい農家の母と子が牛を一頭飼って、ミルクを売って暮らしていました。ある日、もう年老いてミルクが出ない牛をジャックは街に売りに行きました。途中で出会った男が、「牛と魔法の豆を交換しよう」と言いました。ジャックは喜んで交換して家に帰りました。ところが、母親は怒って、豆を窓の外に捨ててしまいました。翌朝、目が覚めると、その豆はてっぺんが見えないほど大きくなって、空に続いていました。

ジャックは豆の木をどんどん上って、人食い大男のお城に着きました。ジャックは大男の金貨の袋や、金の卵を産む雌鶏や宝物の魔法の琴を持って帰ると、大男が追ってこないように豆の木をオノで切り倒しました。それから、ジャックはお嫁さんをもらって、お母さんと三人幸せに暮らしました。

話が伝わった経緯

昔から民間伝承されたイギリス民話。「英国のおとぎ話」の再話集から1933年にディズニーにより世界に紹介された。

【問合せ】一般社団法人 笠間市国際交流協会
℡090-2761-8711（木村 美枝子）

6月の国際交流情報

平成27年度笠間市国際交流協会総会

日　時：6月7日（日）
　　午後1時30分～3時
会　場：笠間稲荷神社　稲光閣

総会終了後には、東京大学附属牧場（安居）の大学院留学生2名（タイ・ナイジェリアを予定）による母国紹介のプレゼンテーションが行われます。当日は、新入会員の受付もしています。皆さんお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

☆6月の日本語教室の開講日

6月6日（土）・13日（土）・20日（土）
（友部公民館　午前10時～）

日本語教室4月の新入生

市長コラム

地方創生

日本の人口は、急速に減少しており、平成20年のピーク時と平成26年の人口を比較すると約100万人も減少しています。

笠間市でも、国勢調査におけるピーク時の平成12年と比較すると、昨年までで笠間、岩間地区を中心に約4500人が減少し、友部地区においては微増となっています。

人口減少は、地域コミュニティの活動をはじめ、さまざまな課題をもたらします。国では、この状況の中で、就労や子育て対策、地域課題の解決に向けた取組みを推進するため、「地方創生」の看板を掲げ、全国の自治体に対して今年中に総合戦略を策定することを求めています。

笠間市では、これまでも総合計画や「人・街・モノ」づくりの方針のもとで、地域活性化に向けた各種の施策を実施してきました。

地方創生という流れの中で、更なる推進を図るため、地域資源や地理的条件を生かした笠間らしい取組みを目指し、「産学官金（産業界、教育、行政、金融機関）」等で構成する有識者会議を立ち上げるとともに、市政懇談会で市民の皆さんと意見交換を行い、総合戦略に反映していきます。

地方・地域創生の中心は、市民の皆さんです。行政もこの機会をチャンスとして、皆さんと協力しながら元気なまちをつくってまいります。

▲　笠間の陶炎祭開会式にて

笠間市長　山口伸樹